

【児童アンケート】chromebookでの実施（339人回答）

学校生活の様子

全体的に概ね良好な回答だった。20項目中12項目において、「そう思う」・「少しそう思う」が90%以上という結果であった。また、3項目においては、「そう思う」と「少しそう思う」が合わせて80%を超える結果となり、様々な場面における児童の積極性がうかがわれる。

特に①「仲よしの友だちがいる」、②「進んで掃除当番や給食当番をしている」と答えた児童が多く、95%以上が「そう思う」・「少しそう思う」と回答していた。一方で、③「本を読んだり読み聞かせをしてもらったりすることに興味をもてない児童」が19%いることが分かった。

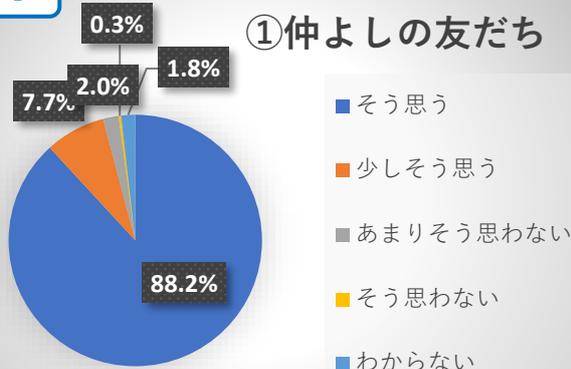
また、学校生活に不安を感じている児童が一定数いることが見て取れる。このことは、学校として重く受け止め、それぞれの困り感に寄り添っていく必要があると考える。

家での様子

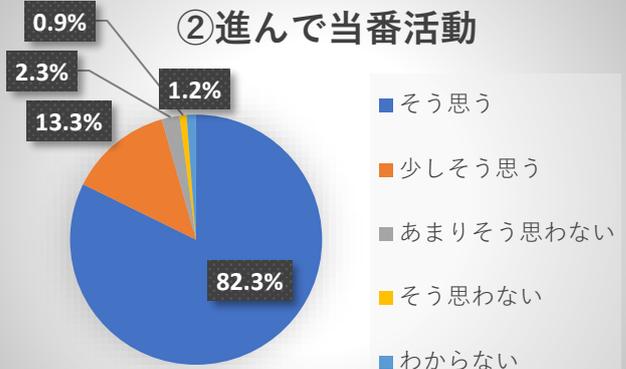
今年度も、④「朝ご飯をしっかりと食べて登校している児童」が多いことが分かった。安全な登下校やあいさつについては85%を超える児童が肯定的な回答だった。「家で、進んで本を読んでいますか」という質問に、「あまり、またはまったく本を読まない」と答えた児童の割合が41%だった。スマートフォンやパソコンを扱う時間が生活の多くを占め、読書にまで手が回らないのが実情である。読書の喜びや読書による世界の広がりや低学年のうちから経験させ、読書の習慣化につなげたいと考える。

参考

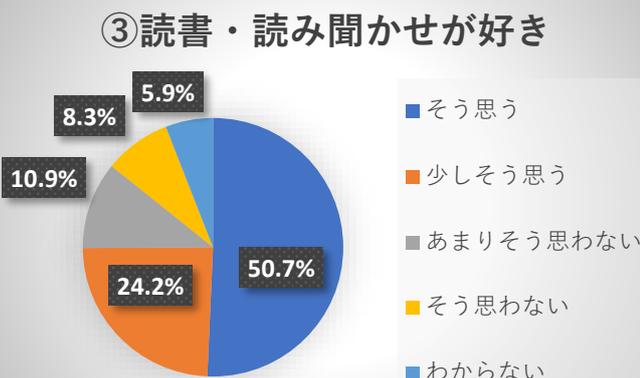
① 仲よしの友だち



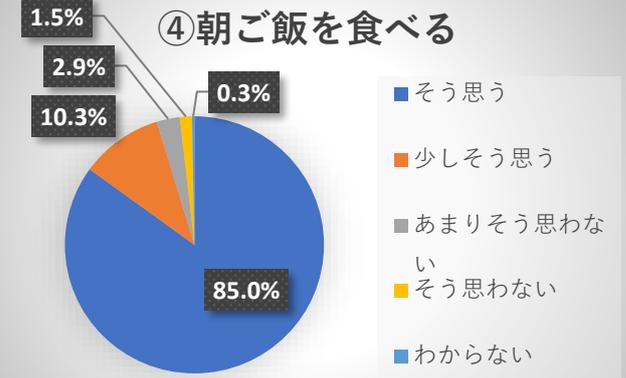
② 進んで当番活動



③ 読書・読み聞かせが好き



④ 朝ご飯を食べる



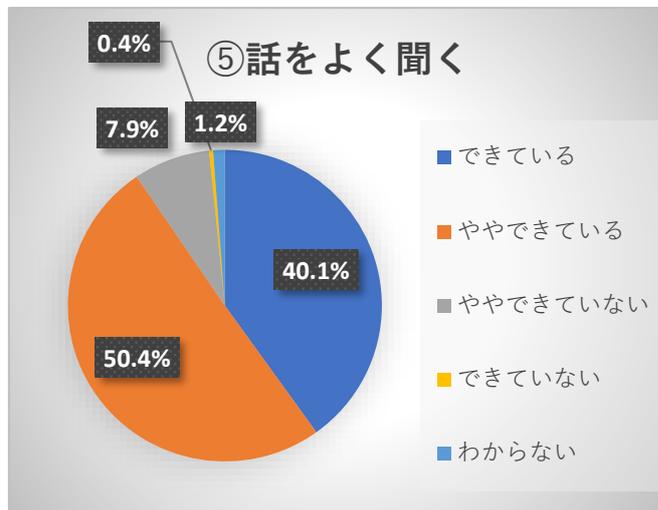
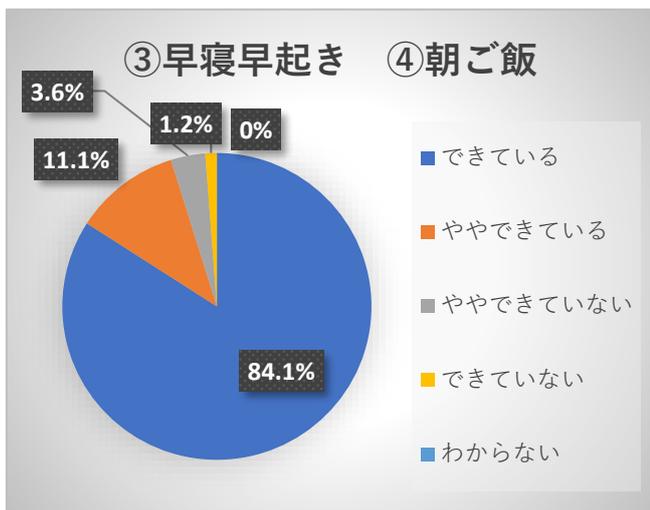
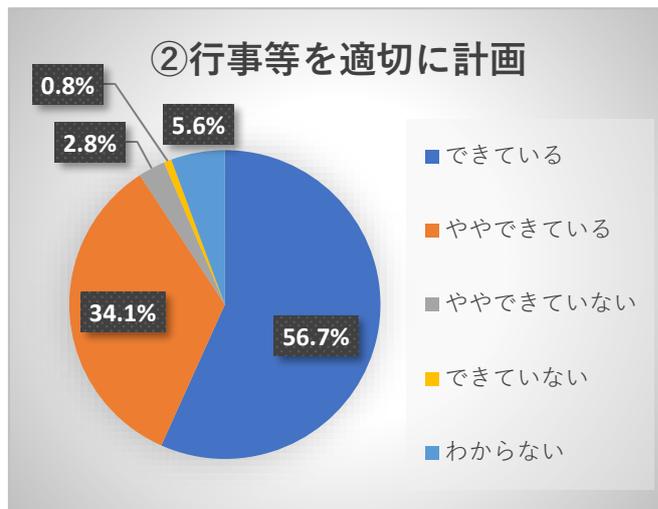
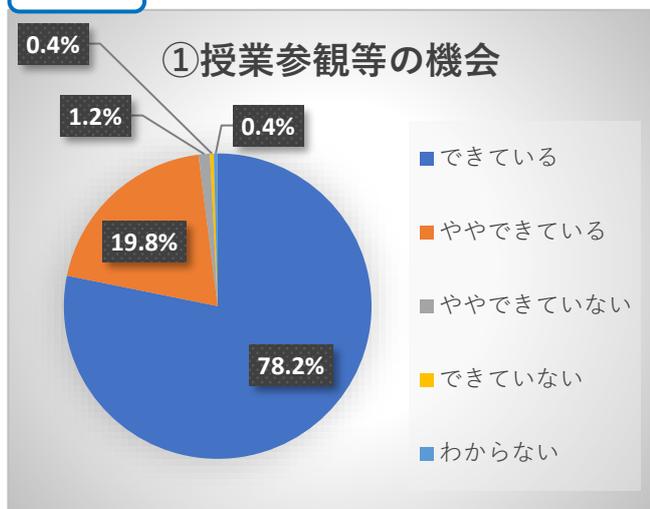
【保護者アンケート】LINEでの実施（家庭数 274 件中 252 件回答 92%）

昨年度に引き続きLINEで実施した。個人面談中にQRコードの校内掲示をしたり、協力依頼メールを配信したりした結果、92%の回収率となった。学校評価に対する期待が大きいと受け止める。

学校からのたより・ホームページなどに目を通し、お子さんとの会話に役立てている家庭の割合は77%であり、教育活動に関心をもっている保護者が多いと言える。保護者と教職員が同一の見解で物事を進められるよう、保護者への情報発信は今後ますます重要になってくると考える。これからも根気強く家庭への発信を続け、連携を強化していくとともに、その方法・頻度については更なる検討が必要である。

全体的に肯定的な回答（「できている」・「ややできている」）が多い。中でも学校運営面では、①「授業参観や個人面談等の機会を適切に設けている」（98%）、②「子どもたちが意欲的に活動できるように学校行事等を適切に計画し実践している」（91%）についてよい評価をいただいた。家庭生活では、③「お子さんは早寝早起きができる」・④「毎日朝ご飯を食べる」（共に95%）、⑤「お子さんの話をよく聞いている」（91%）という結果が出ており安定している。授業参観や個人面談などの機会を適切に設けたり、日々丁寧に連絡をしたりする教職員の姿勢が保護者から評価されたと感じる。また、家庭生活においては、多くの保護者が児童の支えになっていることがうかがえる。

参考



【教職員アンケート】LINE での実施

①「教職員全体で児童指導にあたるために、報告・連絡・相談を密にし、相互の意思疎通を深める」、②「よく考え行動する児童の育成に努める」、③「研究テーマを意識し、計画的に校内研究に取り組む」、④「家庭・地域の理解と協力を得た学校運営を行っている」において、「できている」・「ややできている」が100%となった。教職員全員が学校運営の改善・向上を意識し、児童にしっかりと向き合っていること、また、「チーム」として事態に対応していることが分かる。今後も、小さなことも見逃さない教職員の意識、事案に対する粘り強い取組が継続できる体制づくりを進めていきたい。

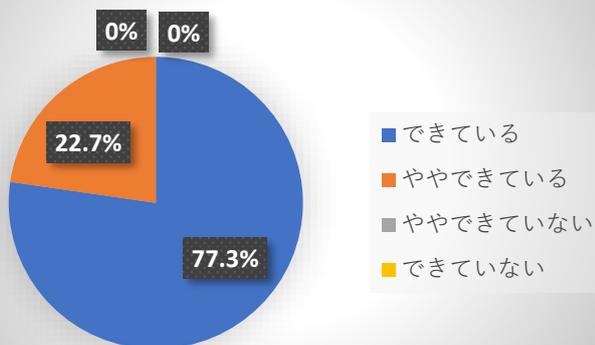
また、「学校からの情報を積極的に配信するとともに、授業参観や懇談会を効果的に利用し、学校・学年・学級の方針への一層の理解と協力を図る」についても、肯定的な回答が100%となっている。ホームページやLINEでの情報発信に加え、保護者会や個人面談の効果的な実施、各種たよりの発行、日々の丁寧な連絡など、必要なことを必要な時に発信することを心がけている教職員の姿が浮かび上がる。

全教職員で粘り強く校内研究に取り組み、目標をもって指導の充実を目指してきたことが、今回の結果に大きくつながったと考える。

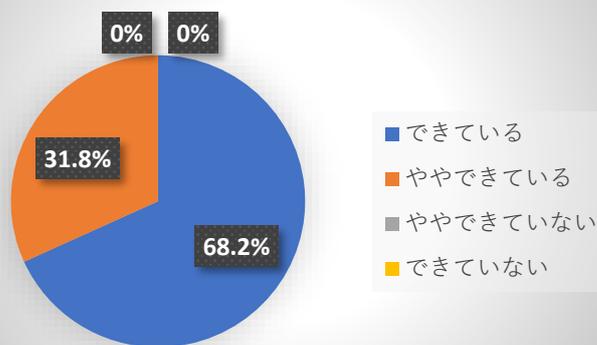
令和6年度は、行事の精選や見直しは進めたものの、未だ児童・教職員の多忙さが目につく状況である。今後は教育課程を全般的に見直し、本当に必要なものに十分な時間を割いていけるよう継続的な見直し・改善を図っていきたい。

参考

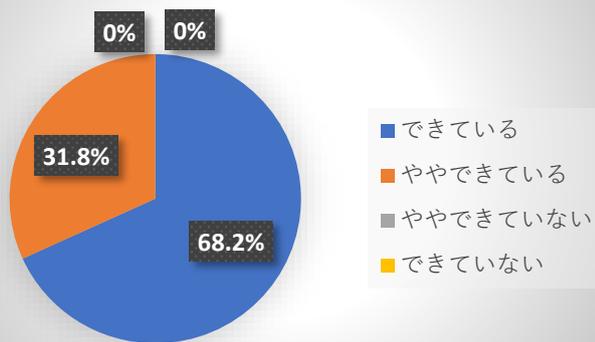
① 報連相を密にした意思疎通



② よく考え行動する児童育成



③ 計画的に取り組む校内研究



④ 家庭等の理解を得た学校運営

